

令和七年第一回薩摩川内市議会定例会 施政方針と予算の概要

一 はじめに

令和七年第一回市議会定例会に当たり、市政の状況並びに施策に関する所信の一端を申し上げますとともに、提案いたしました令和七年度当初予算案等の概要を御説明し、議員各位並びに市民の皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

まず、年始の恒例行事である消防出初式につきましては、先月五日に上甕・下甕の両会場で、また十一日には本土会場で開催いたしました。消防隊による規律厳正な訓練や演技のほか、市誕生二十周年を祝し、薩摩川内火けし保存会による「木遣り唄」も披露され、新春にふさわしい活気あふれる式典となり、日頃の訓練や消防団活動に対し、感謝の言葉を述べたところであります。近年、激甚化・頻発化する自然災害の脅威から、市民の皆様の安全・安心を確保するために、今後も、消防団や消防後援会をはじめ、関係機関と市が連携を図り、防災体制の維持・改善に努めて参ります。

先月十二日には、二十歳のつどいを開催し、参加された方々の新たな門出を祝い、エールを送りました。会場内は、厳かな

雰囲気の中にも、久々の再会を喜ぶ笑顔であふれ、二十歳を迎えられた方々にとって、思い出を振り返りながら、決意を新たにする機会となったところであります。本市発展の新しい原動力となる、希望に満ちた若い方々の活躍を大いに期待しております。

先月十八日には、東京薩摩川内会賀詞交歓会に、翌十九日には福岡さつま川内会総会・交流会に参加し、日頃から郷土発展のために多大な御支援と御協力をいただいている皆様に近況報告などを行い、本市ふるさと納税のPRを行いました。

先月二十二日には、自由民主党幹事長の森山裕衆議院議員に面会し、南九州西回り自動車道阿久根川内道路の（仮称）湯田トンネルの着工、重要港湾川内港唐浜埠頭の整備促進、川内宮之城道路の高規格道路としての早期実現に向けた要望を行いました。

加えて、先月三十一日には、本市、伊佐市及びさつま町の行政、議会並びに商工会議所等の関係団体で構成する「川内宮之城道路建設促進期成会」において、設立後初となる要望を九州地方整備局の森田康夫局長に対して行い、川内宮之城道路の「高規格道路としての位置付け」と「早期建設」等を求めたところであります。今後も、関係団体と一体となって、早期実現に努めて参ります。

また、先月二十六日には、市誕生二十周年を記念し、「丸山ニコニコの森づくり」市民植樹祭を開催しました。市民の皆様が憩いと安らぎを感じ、自然と笑顔があふれ、未来へつながる森づくりを引き続き推進して参ります。

今月一日、二日には、本市と連携協定を結び、昨年十二月に開催された、天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会で優勝した、SVリーグに所属する、ヴィクトリーナ姫路のホームゲームが開催されました。本市でのSVリーグの開催は初めてであり、小・中学生が無料招待されるなど多くの観客でにぎわいました。引き続き、このようなスポーツイベントの開催を通じて、地域の活性化を図り、本市の交流人口の拡大につなげて参ります。

今月六日には、求職者の就労と企業等の人材確保の促進のため、「薩摩國合同企業説明会」をサンアリーナせんだいで開催しました。高校二年生を中心とする約四百三十人の来場者に、本市を含む北薩地域の七十七の企業の皆様が、自社の魅力をPRしました。引き続き、地元企業の認知度向上を図るとともに、新卒者や転職者の獲得に向けて取り組んで参ります。

また、今月十四日から十六日の三日間、川内原子力発電所で、の事故を想定した、国・県・本市を含む関係市町が主催する原子力総合防災訓練が行われました。川内原子力発電所で国によ

る訓練が行われるのは十二年ぶりであり、令和六年能登半島地震を踏まえ、昨年、本市が国や鹿児島県に提案を行った、道路損壊に伴う孤立集落からの住民避難訓練の実施等に加え、市独自でも大規模地震時の職員参集訓練や甑島における津波避難訓練などを実施しました。

今後も、国や鹿児島県をはじめ、関係機関と十分に協議を行い、原子力防災対策の更なる実効性向上に生かして参ります。

また、本日十八日から、本市、さつま町、阿久根市及び長島町を管轄する「北薩三消防本部指令センター」の仮運用が始まりました。本年四月からは、北薩三消防本部が、災害発生時や消防車両の出動状況などの情報を共同管理することにより、一つの消防本部では対応が困難となる大規模災害発生時において、他消防本部の消防車両の出動による迅速な応援体制が整います。今後も、複雑・多様化する災害に対応できるよう、持続可能な消防体制を確立して参ります。

いよいよ来月には「結Line こしき」が就航します。就航に合わせ、来月十四日に記念式典と内覧会が開催され、二十日の就航日当日には、記念イベントも行われます。また、四月一日には「甑ミュージアム」がオープンします。これに先立ち来月二十三日には、完成記念式典と内覧会を開催します。関係人口の創出や甑島の更なる振興の機会と捉え、多くの方々に親

しまれる施設となるよう、P Rに取り組んで参ります。
なお、先般、度重なる職員の不適切な事務処理により、市民の皆様に対し、多大な御心配と御迷惑をお掛けしましたことに、深くお詫び申し上げます。今後も、再発防止を徹底するとともに、職員と一丸となって、市民に信頼される市役所づくりにまい進して参ります。

二 施策の概要

第二百十七回通常国会の施政方針演説において、石破茂内閣総理大臣は、我が国は「人材希少社会」に入っており、年齢や障害の有無に関わらず希少な人材を大事にする社会づくり、国民一人一人の幸福実現を可能にする、人中心の国づくりを進め、すべての人が幸せを実感できる社会を築き、多様な価値観を持つ一人一人が、互いに尊重し合い、自己実現を図っていける活力ある国家「楽しい日本」を目指していきたいと国民に訴えました。

このような中、本市においては、令和七年四月を始期とする第三次総合計画に掲げた未来のまちの姿の実現を目指し、誰一人取り残さない、持続可能で、笑顔あふれる魅力的なまちづくりを力強く推進して参ります。

行財政運営においては、少子高齢化の進行に伴う社会保障関係経費や、公共施設等の維持管理経費などの経常的経費の増加が続いている状況にあることから、引き続き、健全で持続可能な財政構造を確立すべく、中期財政運営指針を第三次総合計画前期基本計画の計画期間と合わせた期間とするとともに、財源確保や基金、市債等についての方針を定める改定を行って参ります。

これらを踏まえ、令和七年度は、「子ども・子育て」、「薩摩川内スマイルアクション五〇」、「コミュニティ・市民活動」、「産業人材確保・移住定住」、「SDGs・カーボンニュートラル」、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」の六項目にポイントを置き、予算の選択と集中を図りながら、新たな行政課題の解決に積極的に取り組んで参ります。

「子ども・子育て」につきましては、来年度から独自に、十八歳までの全ての子どもの医療費の窓口負担をゼロにするとともに、子育て世帯が二十四時間三百六十五日、医師に相談できる「医療相談アプリ」いつでもドクター」を導入するなど、安心して子どもを産み育てられるよう、支援の強化に努めて参ります。

「薩摩川内スマイルアクション五〇」につきましては、若手アーティストと市民が一体となった市民参加型の音楽イベント

を実施するほか、循環経済・産業を生み出す五つの現場である「川内港」「サーキュラーパーク九州」「川内港久見崎みらいゾーン」などを巡る親子バスツアーを新たに実施し、子ども向けイベントの充実を図るとともに、子どもたちが安心して遊ぶことができる遊具を整備するなど、官民一体となって「楽しく、笑顔がつながり、人が集うまちづくり（スマイルコミュニティ）」と、「人と経済が循環するまちづくり（サーキュラー都市）」の実現に向けて取り組んで参ります。

「コミュニティ・市民活動」につきましては、ふるさと納税の一部を活用して、新たにコミュニティ協議会の活動を支援するとともに、市民活動ネットワークに登録する複数の団体が連携して実施する事業の経費の一部を助成するなど、地域活動への参画や協働の意識醸成を図り、地域力の向上に努めて参ります。

「産業人材確保・移住定住」につきましては、既存の人材確保・移住定住施策を継続しつつ、就業及び移住定住の更なる促進を図るために、情報発信の強化などに取り組みます。また、薩摩川内市産業人材確保・移住定住戦略協議会の構成団体等とも連携を図りながら、医療・福祉のほか、農林水産、建設、地域公共交通など、多様な分野における人材確保・育成にも継続して取り組んで参ります。

「S D G s・カーボンニュートラル」につきましては、引き続き、「薩摩川内S D G sチャレンジ」を合言葉に、市民の皆様や事業者などと連携し、S D G sの普及啓発、人材育成を行って参ります。また、ごみ焼却量の削減及びリサイクル率の向上のため、プラスチック使用製品（十八品目）の分別回収を行うなど、資源循環の促進に取り組み、二〇三〇年のS D G sの達成、二〇五〇年のカーボンニュートラルの達成を目指して参ります。

「D X（デジタル・トランスフォーメーション）」につきましては、マイナンバーカードの公的個人認証サービスを活用し、従来の郵送による市役所からのお知らせを、スマートフォンで確認できるデジタル郵便通知システムを導入するとともに、市と地区コミュニティ協議会との間でI C Tプラットフォームの導入に向けたモデル事業を実施するなど、デジタル技術を活用した地域課題の解決に取り組んで参ります。

これらの六項目にポイントを置きながら、市民生活の安定、地域経済の発展に向け、第三次総合計画に掲げた政策を総合的に推進して参ります。

コミュニティ・都市経営につきましては、地区コミュニティ協議会及び自治会の活動・連携を支援するとともに、D E & I（ダイバーシティ（多様性） エクイティ（公平性） アンド

インクルージョン（包括性）が当たり前の文化となるよう意識改革や環境整備を推進し、結婚を希望する方々の応援や、子育て世帯を優しく包み込む社会的な気運醸成に努めて参ります。

また、S D G s・カーボンニュートラルの達成に向け、新たに、人・モノ・経済・情報の循環が促進され、資源循環の拠点化を目指す取組を国内外に効果的に発信し、「サーキュラー都市・薩摩川内市」としてのブランディングの確立によるシビックプライドの醸成を目指します。

市民安全・消防につきましては、本年十一月にラムサール条約登録湿地二十周年を迎える藺牟田池の記念イベントの開催や魅力発信に取り組みとともに、温室効果ガス総排出量の削減に向けて、粘り強く啓発活動を展開して参ります。また、防災・原子力安全に関しては、防災力強化のために、引き続き防災行政無線システムの更新を行うほか、災害時に市民が迅速な避難ができるように、新たな避難情報システムを導入します。消防・消防団に関しては、消防職員・団員の資質の向上や消防団員の処遇改善を図るとともに、機動性を高めるために、消防資機材の年次的な整備や装備の充実と消防分野のD Xの推進を図って参ります。

保健福祉につきましては、子育て世帯に寄り添い、多様なニーズに応じた子育て支援と保育サービスの充実に取り組みます。

また、障害者の福祉の充実など、支援を要する市民の負担の軽減等を図るとともに、高齢者の地域生活を支える地域包括ケアシステムの強化や、介護サービスの充実を図り、健やかに生き生きと暮らせるまちづくりを進めて参ります。甑島医療に関しましては、（仮称）上甑島診療所の建設に着手し、新たな体制の構築を進めて参ります。

教育につきましては、学校トイレの洋式化や特別教室への空調設備の整備に引き続き取り組みながら、子どもたちの快適な教育環境の確保を推進するとともに、学びの多様化を推進し、将来を担う若者の未来をたくましく生きる力を育んで参ります。また、文化財に関しては、保存・継承と活用体制の充実に努めて参ります。

産業・シテイセールスにつきましては、農林水産業に関して、その基盤整備・保全を図り、担い手の育成・確保や所得向上に向けた支援及び六次産業化の促進に継続して取り組み、農林漁業者の経営の安定と雇用の創出に努めて参ります。また、商工業に関しては、商圈機能の維持拡大を図るため、中心市街地の空き店舗対策や各地域の商店街等のにぎわい創出の支援を継続するとともに、引き続き、産業人材の確保に取り組んで参ります。

加えて、川内港久見崎みらいゾーン、入来工業団地への産業

立地を推進するとともに、高城産業用地等の整備を着実に進めて参ります。また、川内港唐浜地区国際物流ターミナル整備事業の完成を見据え、新たな航路開設に向けた調査に取り組んで参ります。

観光に関しては、交流人口及び経済活動の拡大を図るため、新たな観光誘客イベントへの支援を強化するとともに、東部エリアにおいては、川内川流域市町と連携した経済活性化の促進を図ります。ふるさと納税につきましては、更なるPR促進に取り組んで参ります。

文化・スポーツにつきましては、伝統芸能及び愛着のある地域文化の保存・継承活動への支援を行って参ります。また、スポーツ合宿等の誘致や、スポーツに親しみ、活動を楽しむための取組や環境整備を推進して参ります。

建設・水道につきましては、川内川河川改修事業や流域治水対策等により、防災基盤の整備保全に努めます。また、南九州西回り自動車道阿久根川内道路については、早期完成に向け、引き続き関係機関と一体となった国への要望活動を実施して参ります。重要港湾川内港については、国直轄による耐震強化岸壁の整備や鹿児島県による埠頭用地の整備が令和七年度末の暫定供用に向けて進められており、北海道室蘭市のガントリークレーンの移設に向けた協議も開始され、早期の供用開始に取り

組んで参ります。

以上、施策の概要を述べましたが、令和七年は、市長就任以降、広聴活動等により策定作業を進めてきた、今後、十年間の市政経営の指針となる第三次総合計画のスタートの年となります。本市の未来を創造し、市民の皆様と共に、「人が繋がり 人が輝く安らぎと賑わいのまち 薩摩川内」の実現に向け、まい進する所存であります。

三 予 算 の 大 綱

令和七年度当初予算案においては、予算編成方針に基づき、第三次総合計画に基づく実施計画及び重点戦略プラン事業や、薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言や薩摩川内市SDGs未来都市計画の趣旨を踏まえた取組の推進などの予算を編成したところであります。

これらの結果、一般会計当初予算は、前年度当初予算に比べ、二・七パーセント増の五百九十一億二千万円となりました。また、温泉給湯事業など九つの特別会計は、合計で二百五十九億九千七百七十五万五千円となったほか、水道事業など三つの公営企業会計は、合計で五十九億三千九百七十一万円となりました。

なお、令和七年度においても、年間予算として編成したところでありますが、特定離島ふるさとおこし推進事業など採択状況を見極める必要があるものにつきましては、六月期の補正予算案として提案する方針であります。

また、本定例会において、法律の改正に伴う職員等の給与経費等に係る一般会計及び特別会計の補正を提案しておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

四　　む　　す　　び

本定例会におきましては、薩摩川内市少子化対策・子育て支援基本条例の制定についてをはじめとする各議案の御審議をお願いしておりますが、会期中に、副市長及び行政委員の選任等について議案等を追加提案させていただく予定でありますので、御了承を賜りたいと存じます。

提案いたしました各議案の細部につきましては、主管部局・課長等から説明させますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げ、私の施政方針といたします。